

各 位

2024年5月8日
株式会社リットーミュージック

わたせせいぞうが半生を振り返る書籍『ボクのハートフルライフ』が5月20日発売に
描き下ろしのカバー装画による画業50周年記念出版！



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）内で文芸・カルチャー関連を扱う出版レーベル立東舎は、『ボクのハートフルライフ』（わたせせいぞう 著）を、2024年5月20日に発売します。

本書は、2023年2月14日から同年4月29日まで「西日本新聞」に連載された回想録「ボクのハートフルライフ」（聞き手：壇知里）に加筆・修正を施し、さらには自選のコミック作品やイラストレーション作品も併録したものです。幼少期の思い出から、絵画に目覚めた頃の逸話、損保会社でのさまざまな経験、そしてもちろん「ハートカクテル」を始めとしたわたせ作品の創作秘話などが明かされ、実際の作品を見ることがもできるので、「ことば」と「絵」でわたせワールドを堪能可能となっています。

作家・わたせせいぞうはいかにして誕生し、その背景にはどのような創作の秘密があったのか。画業 50 周年の今年、ぜひご自身の目で確かめてみてください。

戦禍を逃れ北九州へ

1945年2月15日、日本が太平洋戦争で敗戦への道を突き進んでいた最中に、ボクは神戸市で誕生しました。当時の神戸の空襲被害は全国でも突出したほどでした。ボクが生まれる1日前の2月4日、空襲が激化していき、住宅が密集する都部を狙った無差別焼夷爆撃が神戸を襲います。「ウー」という爆撃機が空に次第のB29が現れ、大量の焼夷弾を降らせました。随月の母はばはんのおかを初めに獲い、防空服巾をかぶって外に出ますが、辺りは既に火の海です。「避難しろ！ 逃げろ！」。父に寄り添われた母は、両手でもなかをかばいながら、精いっぱい逃げ足で防空壕へ逃げ込んだと聞いています。街中はいっつも煙たい臭いにまみれ、日に日に焼け野原が広がっていきましました。そんな混沌の中で生まれたふにふにの赤子、つまりボクを前に、両親は父の実業がある瀬岡小倉市（現北九州小倉北区）への疎遷を決意したそうです。父は背中と両手に大荷物、母はまだ背も預わっていないボクを抱いて、命がから戦禍の神戸を後にしました。神戸市文書館によると、神戸の街は1945年、計128回の空襲を受けて全壊が壊滅し、約56万人が被災したそうです。

一方の北九州、軍都だった小倉市は8月9日、広島に続く2発目の原子爆弾の投下目標地とされていました。前日の8日夜、「八幡大砲撃」により小倉隣の八幡市（現北九州八幡東区・八幡西区）が火の海になります。空は煙に覆われ、地上の目標地点が見えなかつたため、長崎に投下地点が変更されたことを、後に米國隊が明かしました。もし神戸にあのままだら、もし北九州の空襲が残っていなかったら——。そんな約80年前のことを考えると、ボクを今こうして絵を描いていられるのは偶然のような、それでいて運命でもあるような気がします。

太平洋戦争の戦禍を逃れて北九州に棲してきたボクたち家族は、父の実業で暮らし始めました。現在の北九州市といえは、全国でも際だった人口減少と少子高齢化に直面しており、「高齢化先進市」などと称されることも。しかし、当時は全国屈指のシティでした。福岡市が九州最大の都市となった歴史はそう長くなく、1979年までは北九州府が福岡市よりも人口の多いパワフルな都市だったのです。ボクが住んでいた小倉の大倉町（現北九州小倉区大倉町）辺りは北九州のにぎわいの中心でした。家の前には「勝山通り」という大通りが延び、今はなき「西鉄北九州線」の路面

「わたせせいぞう」誕生

1979年春ボクは競争を受けて東京へ戻りました。4年前に長野へ赴任した時は妻長男と3人暮らしでしたが、東京へ行く数日前に長女が生まれ、家族が増えました。配属先は営業第2部第2課。東京に本社がある大企業を相手に営業します。34歳になり、部下が増え、早朝から夜遅くまで頑張る社員もいて、みんな優秀でスマイルです。できる後輩たちも増えて、しつかりしきやと身が引き締まり、仕事に精を出しました。一つ懸念があるとすれば、例の悪いことで有名なN部長です。長野時代に「ここだけは行きたくない」と思った部署に配属されました。部長は神戸から単身赴任中で早く帰る必要がないため、毎晩遅くまで社に残ります。お隣の営業第1部は全員が帰って電気を消えているのに、われら2部は部長がいるので帰れません。午後11時過ぎまで明かりをつけて残業していました。噂通り厳しくはありましたが、仕事のできる上司でした。飲み会で酔っばらうと薄頼ちゃんと一緒に機嫌の赤ら顔でボクの肩をポンポンたたいてくる。なんておちゃめな。面も、一緒に仕事をしているうち、こわもての顔と威しきの奥にあたなみのある人ということが分かりました。

漫画家業も順調でした。芳文社の編集者から「まだ書いてみませんか」と誘いの電話があったのは、長野時代の1977年夏。編集マンの仕事に没頭して忘れかけていた絵心がぶつとよみがえり、押し入れの奥にしまっていた道具を取り出して、本格的な肉立生活がスタートしていたところでした。長野にいた頃に提出した企画が採用され、「週刊漫画TIMES」で連載を始めました。月2回、長野から東京へはるばる原稿を持参する手前が省けたので随分楽になりました。ボクが初めて連載をしたこの作品のタイトルは「おとこの詩」です。見聞き2ページの短話で、毎回ギャグでオチを付けて終わる「ナンセンス漫画」というジャンルでしたが、途中からスタイルを変更しました。映画のラストシーンみたいな格好良く終わる方が好きだなと思ったからです。すると読者投票のランキングも上昇し、人気作品になりました。実はこの作品で定着した「ラストが格好良く終わる短話」のスタイルが、ボクの代表作「ハートカクテル」の原型です。

「おとこの詩」の連載にあたってペンネームを考えておくよう同社の編集者に言われたので、たくさん考えていくつか提出しました。山井春樹、青山春樹、朝風晋二……

250話のラブストーリー

ポクの名を聞くと、漫画「ハートカクテル」を連想する人が多いのではないのでしょうか。1980年代のバブル景気の礎「キーンング」誌（編集者にカワノ漫画で描きました。「ハートカクテル世代」という言葉も生まれるほど人気を集めました。漫画家としてのポクの名を世に広めてくれた、一番の代表作です。

ハートカクテルは、話が詰っていく通常の連載漫画（ストーリー漫画）とは違い、都会の男女の恋愛物語を4ページで描いた短編集（ショート漫画）です。別れ話でも恋でもラストは必ず映画のように気持ちよく終わります。

主人公は毎回変わる「カレ」と「カノジョ」です。基本の設定があります。

カレは29歳。ポクが、男性が一番魅力的だと思う年齢です。仕事に慣れて責任ある業務もこなし、恋愛も何回か経験して人生の深みや濃淡を分かっているけど、十分に若い。自分が29歳だったときに「こうしたらよかった」という思いを漫画の中のカレに託しました。対するカノジョは、当時の初婚平均年齢より少し下、恋愛期の23歳を想定しています。

舞台のイメージは1970年代の米カリフォルニア。ポクの好きなものや憧れを詰め込みました。

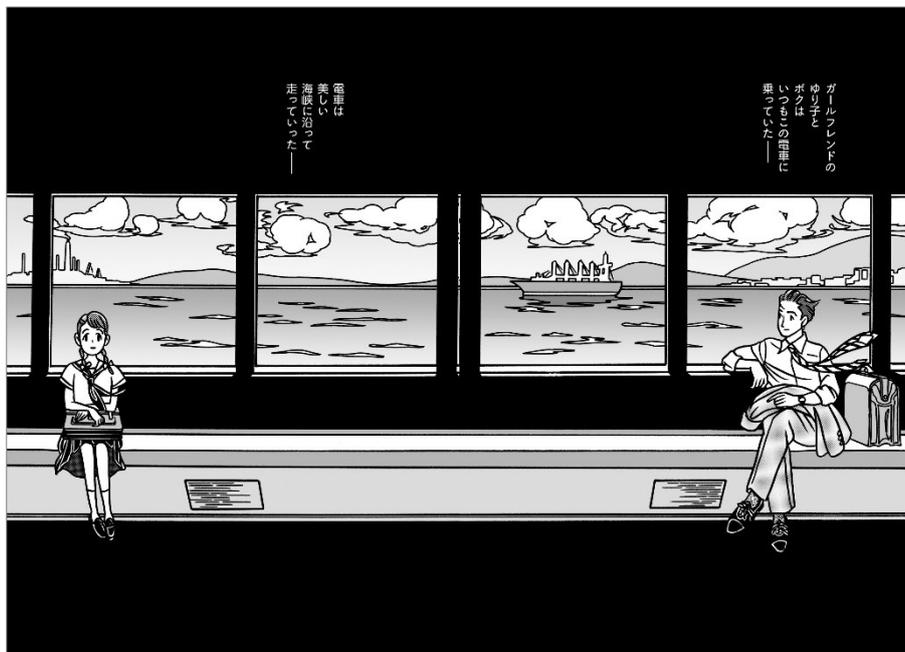
街角にはポツポツな英字のポスターで賑やかさ。路上にはフォルクスワーゲンのビートルやイタリア製オートバイの真っ赤なバスが走っています。服装もおしゃれにいきましょう。カレにはボタンタワンのシャツ、カノジョにはカラフルなスカートや肩幅広めのジャケットを。2人はパリに向かい、6℃に冷えたビールとカリンカリンのポテトを頼みます。

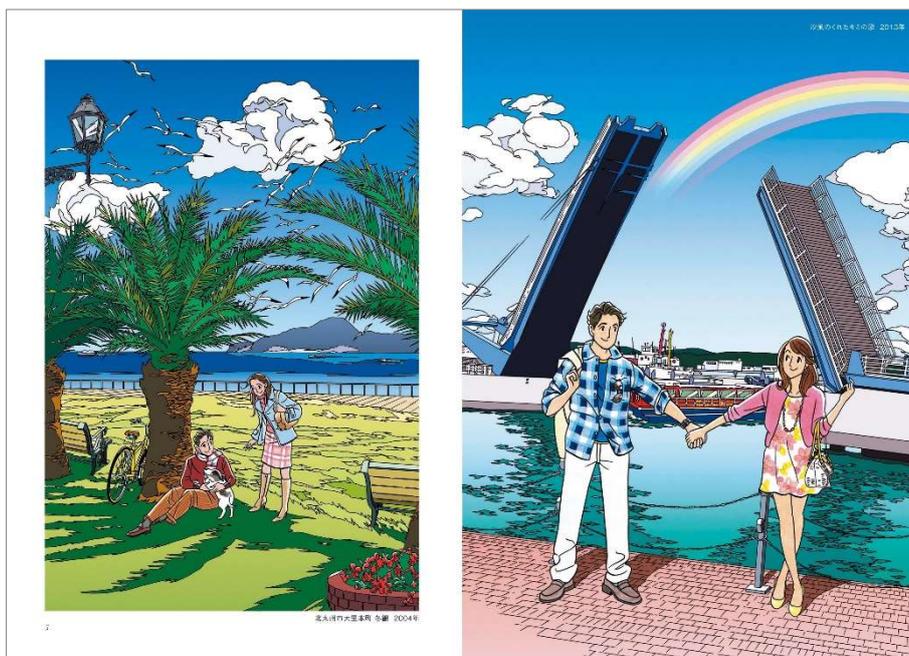
現実世界では無理でも、お話の中なら何でもできます。ただの昔話と違ってしまえばそれまでですが、せつなくので行ってみたいや着てみたい、乗ってみたいというポクの夢を託しました。どんな小さなことを見ても楽しめる仕上がりになっています。

連載した6年間で描いたラブストーリーは250話です。ご自身の体験談ですか？ごよく聞かれますが、昔字がいますし、いや、それだけでなくでもさすがに250回も恋愛するのは無理です。ほとんどはポクの頭の中できた創作のお話です。

でも、一部実話というケースは多々あります。

例えば青春時代のポクは、ある女性と結ばれないまま恋の終焉を迎えました。数年後、再会したとき彼女は別の男性と付き合ひ、タバコを吸うようになっていました。雰囲気まで変わり、まるで別人。ただ、持っていた手製の刺繍があらわれたタバコ入れだけは、ポクの





■書誌情報

書名：ボクのハートフルライフ

著者：わたせせいぞう

定価：2,420 円（本体 2,200 円＋税 10%）

発売日：2024 年 5 月 20 日

発行：立東舎／発売：リットーミュージック

商品情報ページ <https://rittorsha.jp/items/24317416.html>

CONTENTS

プロローグ

第 1 章 故郷 北九州

- ・ 戦禍を逃れ北九州へ
- ・ 駐留米軍 カラフルをもたらす
- ・ 神戸“留学“
- ・ 夢は新聞記者
- ・ 故郷を追われ

第 2 章 ネオンの街 東京へ

- ・ 音楽に熱中した大学時代
- ・ 父と母
- ・ 営業マン渡瀬政造 誕生
- ・ 漫画家デビュー
- ・ 長野転勤で漫画断念

第 3 章 二足のわらじ

- ・「わたせせいぞう」誕生
- ・両立生活のコツ
- ・目指すは営業成績 No.1
- ・独立を決意
- ・幻のディズニーランド

第4章 ハートカクテル

- ・250話のラブストーリー
- ・名編集長からのスカウト
- ・カラー漫画の苦労
- ・ハートカクテル旋風
- ・マネージャーは妹

第5章 色彩の旅人

- ・江戸や絵本にも挑戦
- ・戻ってきた故郷
- ・わたせ教授の想像力講義
- ・2代目マネージャーは元ファン
- ・30年越しのハートカクテル復活

エピローグ

■自選再録作品

バラホテル（門司港）／単行本初収録

ハートカクテル「バラホテル」「バイク・サ克蘭ボ・イパネマの娘」「海に見える借家とクロワッサン」

菜ふたたび「愛し愛されて」

Dr.愛助の孤独「歯科医 五島愛助」

ハートテレフォン「雨上がる」「なみ姉とポタン」

他、イラスト作品

PROFILE

わたせせいぞう

1945年兵庫県神戸市生まれ、北九州小倉育ち。早稲田大学法学部卒業後、サラリーマン生活の傍ら漫画制作を始める。74年『ビッグコミック』第13回コミック賞入賞を機にプロ活動を開始、83年に連載開始した「ハートカクテル」で大人気となる。大人の恋愛の機微を描いた漫画作品の他、音楽ジャケットや企業広告、雑誌等のイラストを多数手がける。白金台、武庫之荘、門司港に常設ギャラリーを開設、百貨店等での展覧会も精力的に行う。2024年に画業50周年を迎える。北九州市漫画ミュージアム名誉館長。

立命館大学客員教授。

壇知里（だん・ちさと）／聞き手

1993年、福岡県小郡市生まれ。広島大学法学部を卒業後、2017年に西日本新聞社入社。福岡市政取材班を経て、熊本総局で熊本県政や司法を担当。2020年8月からは北九州本社編集部で子育て施策を中心に取材している。

【立東舎】 <http://rittorsha.jp/>

立東舎は文芸、マンガほか、さまざまな分野のポップカルチャーを紹介する出版活動を展開中。「乙女の本棚」などの好評シリーズのほか、手塚治虫、谷ゆき子らの幻のマンガの復刻などで感度の高い読者の話題を集めている出版ブランドです。

【株式会社リットーミュージック】 <https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー&クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア&コンテンツ事業を展開しています。新しく誕生した多目的スペース「御茶ノ水 RITTOR BASE」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』やエンタメ情報サイト『耳マン』、Tシャツのオンデマンド販売サイト『T-OD』等のWebサービスも人気です。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: pr@rittor-music.co.jp